

## 高岡市農業協同組合の保健婦として

高岡市農協保健婦 荒木 富美子

健康づくり、健康管理の声が年々強まっている現在、当農協もその例外ではない、農家組合員を中心に「健康で豊かな生活」をめざし健康問題を核に農協の方針に沿った新しい村づくりに取り組んでいる。

昭和40年に生活指導員が設置されて以来、婦人部組織を中心に健康活動を推進して来た。当初は1名の生活指導員が現在は4名に増員され、やがては組合各支所に（17支所）配置を検討中である。私は保健婦として昭和54年に当農協に就職し、農家組合員の保健活動に取り組んでいる。

高岡市農協概況 農家戸数 4,741戸（内専業農家 110戸）、組合員 9,036名、青年部986名、婦人部 5,035名、職員 314名。

耕地面積 347,501 a、農地の97%は水稲単作であり、一戸あたり耕作面積 0.7ha程度であるため兼業率は97%と高率である。また社会の構造的変化により農村の混住化が年々進んでいる。この様な中で農村と言えども表面的には衣食住すべてにわたり都市地域と変わらなくなって来ている。しかし、農家という実態を眺めるとその根底には種々の健康上の問題点が多く潜在している。

そこで、私は農協の保健婦として生活指導員と共に農家の健康管理に取り組んできたことをふり返り、反省しつつ当農協の活動をまとめてみた。

### 生活・健康上の特長（問題点）

① 農家の兼業化率が97.7%という状況にあり、

恒常的に仕事をもっている（サラリーマン農業）ため、日曜農業をしいられ労働過重におちいりやすい。

- ② 労働時間が長くなりやすく、自覚症状等があっても健康に対する積極的な取り組みが少なく、また認識を深める機会も少ない。放置型・がまん型がまだまだ多い。
- ③ 婦人や高齢者の農業労働負担が大きく、高血圧・貧血・腰痛等の疾病が多い。

### 健康推進活動の組織化

組合員とその家族ぐるみの健康づくりを組織的に展開する目的で、昭和53年に健康管理推進協議会（本所組織）を結成した。

この協議会が結成される前までの健康管理活動の取り組みは、検診活動・料理講習などすべて婦人部組織に依存したようなものであった。

健康活動<sup>イコール</sup>婦人部対象という考え方から脱却して、家族ぐるみの活動へともりあげるためにこの組織化に取り組んだのである。

例えば、高血圧予防の減塩を進める料理講習や学習会をいくら婦人部で開催しても、家の中でお父さん達の理解と協力がなければ、その実際を家庭の中で生かしきれない。

このように、健康問題は、婦人（家庭の主婦）のみの問題でもないし、婦人の協議会では解決しきれぬものではなくてきている。料理講習は婦人部だけの問題ではなく、男性も参加してもらって料理講習会の方が効果的ということで、お父さん方には審査員という役

割を分担してもらい、料理コンクール、酒から肝臓を守るおつまみコンクール等の開催で男性組織の参加を実現し、健康への理解を高めた。このように男性組織を含めて健康問題を推進する新しい組織づくりに取り組んだ動機をまとめてみると、

- ① 健康管理活動＝婦人部活動のイメージを取り除き、広く組合員全体の問題であることを明確にする。
- ② 当農協組合員の健康度は県下の平均値以下であったこと、これは家族ぐるみのより強力な健康活動が必要であった。
- ③ 健康活動と組合員  
農協への組合員意識が薄れつつあるとき健康管理活動を展開することにより組織活動の強化をはかる。
- ④ 農村の高齢化問題は今後の健康管理の大きな課題として農協なりの取り組みが必要となってきた。
- ⑤ 農協イメージの転換をはかり、地域機関として定着をはかる。
- ⑥ 生活の合理化をすすめるなかで、新しい地域づくりを考える。

表1 高岡市農協健康管理推進協議会支部モニター委員会  
モニター委員会（又は幹事会・常任委員会とも称する）



この健康推進協議会では「農協は自分達のため何をしてくれるのか」というのではなく健康のため「今、何をしなければならないか」と考え実行する組織であることを原則として支所の組織づくりを推進した。現在全支所17支部が結成されそれぞれの地域に応じた活動を展開している。

### 支部組織の運営

組合員主体の健康づくり活動であるため、組合員と密度の濃い支部協議会活動に重点をおいている。

支部の運営は、その活動の母体となるべきモニター委員会（又は、支部により幹事会・常任委員会とも言う）を作っている。モニター委員会の委員の選出については、

- ① 各組織の代表者であると共に、性別の均衡をはかる。
  - ② 活動をより浸透させるため、集落間の均衡をはかる。
  - ③ 地域全体の活動展開をするため、地区内の関連団体の参加を求める。
- という点に留意している。

各支部のモニター委員会には、毎回担当の生活指導員と保健婦が出席し、活動に関する企画や実践に参画しているが、指導者側のおしつけにならぬよう注意し、常に皆んなの意見でとり進めるようにしている。

### 主な健康推進活動内容

全支所に協議会の支部が結成されているが順調に成果をあげている支部ばかりでなくやっと組織づくりにこぎつけたという支部もある。また、その地域の農業や環境、組合員に合った特長ある活動に心がけているため、全支所同

じ活動をおしつけて実施するというのではなく、各支部毎にそれぞれ目標をかかえて独自の運動を展開している。

#### (1) 調査活動

- ・健康に影響をおよぼす生活・生産面の行動調査、みそ汁の塩分調査(1,000戸)。井戸水使用者の水質調査、尿糖調査(3,100名)、農繁期の肝機能に及ぼす調査(地区指定延44名)、地区の生活、健康実態をつかみ問題点を知らせ改善方法についての話し合いをしている。

#### (2) 意識啓蒙活動

- ・健康推進パネルの設置(3支所)
- ・健康標語の募集——優秀作品は大懸垂幕として支所の正面に掲げている。
- ・健康だよりの発行(各支部毎)
- ・健康部落座談会
- ・健康増進器具の展示など  
農協支所に掲げられているポスターは生産、貯金、購買などで占められていたが組合員の健康を守るパネルを大きく掲げた事により農協自体の取り組み姿勢を明示することができた。このため、支所店舗を一部改造した。

#### (3) 教育活動

- ・全支所健康教室
- ・健康づくり大学(夫婦揃って出席する)
- ・健康教室——受講料を徴収している。徴収後も出席率に影響はない。(自分の健康は自分で守る、という意識を強めるため)

#### (4) 検診活動と事後指導

- ・ミニドック検診(年間400名受診)
- ・精密成人病検診(年間200名受診)
- ・健康管理台帳の整備と活用  
(検診受診者の指導、相談時に活用)
- ・保健指導用のパンフレットの作製と活用  
(検診結果は、個々の健康度を科学的に把握できるのみならず、その地区の健康実態として、皆んなに訴える大きな力として活用している。)

#### (5) 体力づくり活動

- ・組合員運動会(5,000名の参加)
- ・歩こう会
- ・ビーチバレーボール大会
- ・ゲートボール大会
- ・農民体操・こきりこ体操の普及
- ・親子体力づくり大会

(固苦しい学習ばかりでなく、楽しく体を動かしながら年令を問わず参加できる活動をすすめている。)

#### (6) 農業振興と健康づくり

- ・大豆粉と圧べん大豆の普及  
(転作大豆を活用して健康づくり)
- ・減塩漬物(大根)の普及  
健康活動の中から発展したもの、塩分を抑さえ日持ち良く、おいしい漬物が評判となり予約者に委託加工をしてわけている。団地、市街地からも希望者多数あり(2級品大根使用)
- ・薬草づくり(ハト麦、当帰など)  
転作の一環として地区の農業振興と農家の生産と健康を結びつけた活動にも力を入れている。

#### (7) その他

- ・農休日の設定(野菜農家)
- ・わが家の健康手帳全戸配布(5,500戸)
- ・健康づくりに役立つ食品の共同購入運動
- ・農協の地域祭りの開催  
地域の関連組織が参加する。それぞれの組織が役割を分担し協力して実行する。

#### 農協の保健婦として

農家の健康管理活動をすすめる上で、保健婦の力のみで成果が上がるわけではない。農協の生活活動の一分野としてとらえ、たえず生活指導員と連携をとって協力しながら活動を進めている。

#### 保健婦としての活動方針

- (1) 農家の生活生産に応じた保健指導や事後

指導の実施（野菜、水稲、酪農など）

- (2) 自分の健康は自分で守る!!を意識づける。
- (3) 予防医学という観点からの保健指導や衛生教育の実施。

以上の3点に重点を置いている。

保健婦だから保健指導を行うと言うものの、効果のある指導とは、農家生活を見つめながら、生活のすべてにわたっての援助、指導であるとも言える。つまり保健指導＝生活指導である。農家の生活全般に潜んでいる問題点を見出し、より健康で快適な生活へと改善してもらう為に、援助したり指導したりすることが、指導員の役目であるので、ここまでは保健婦、ここまでは生活指導員というように線引きはできない。1つ1つの活動の中で、お互いの専門的分野をより効果的に発揮できるようにと努めている。

## おわりに

健康管理推進協議会が発足して、今年で4年目である。

まだまだ、各支部毎の活動にもバラつきがあり、その運営や活動内容も十分成果があがっている支部ばかりでもない。

しかしながら、この組織づくりのおかげで私たち指導員も婦人部だけのつながりではなく、生産組合、青年部等との交流も強くなってきた。モニター委員会の定期開催により健康を中心に新しい人間関係が生まれコミュニティの場としても発展しつつある。

今後は、高齢者への取り組みを積極的に進める等、協議会組織を核として、より広い意味での健康管理活動へと推進してゆきたいと思う。